

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：82619

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22682001

研究課題名(和文) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究

研究課題名(英文) The beginning study of trades and collections of antique Japanese textile in the modern period.

研究代表者

小山 弓弦葉 (Oyama, Yuzuruha)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部調査研究課工芸室・主任研究員

研究者番号：10356272

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,300,000円、(間接経費) 2,490,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、明治期以降、古美術品として国内外に流出した古日本染織の動向を調査し、さらに、それらのコレクションが美術館あるいは個人のコレクターの元に保管されるようになった事由について調査した。そのことによって、古日本染織が大正期から昭和初期にかけて古美術品として国内外に認識されるとともに、従来知られていた以上に、アメリカやヨーロッパで多種多様な古日本染織が美術品として収集されていたことが浮かび上がった。また、海外における古日本染織の古美術品としての価値観は、日本における価値観と大きく異なることも明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study focused the movements of trading Japanese antique textiles as objects of virtue after the Meiji Restoration, and researched the reason why museums or private collectors owned those Japanese antique textiles. Then it revealed that Japanese antique textiles were known as objects of virtue in Japan, US and other European countries from Taisho era to the early Showa era. This research picked out more and more collectors and museum collections of various Japanese antique textiles. In addition, we recognized that the sense of value of Japanese antique textiles as the object of virtue in US or Europe differed from that in Japan.

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：古日本染織 古美術商 コレクター 海外流出 野村正治郎 山中商会 明治・大正期 昭和初期

1. 研究開始当初の背景

(1) 現在、美術史研究における「工芸」の一分野とされる染織史研究は、戦前における在野の風俗史研究をベースとして戦後確立された。戦後以降における染織史研究で基盤資料となるのは、明治期以後にはじまった日本美術ブームに伴う、日本内外に所在する古日本染織コレクションである。これまで、在米の小袖・能装束類や国立歴史民俗博物館に所蔵される野村正治郎旧蔵コレクション、京都府立資料館・奈良県立美術館・福岡市博物館に分蔵される吉川観方旧蔵コレクションなど、一部のコレクションについては展覧会や論文等で研究報告がなされてきたが、欧米に点在する袷袋・袱紗・その他裂類といったコレクションや実業家や画家といった特殊な経歴を持つ日本の古日本染織コレクターについては体系的な調査研究がなされてこなかった。

(2) 日本国内外において戦前までに形成された古日本染織コレクションの共通点として想定されるのは、古日本染織を古美術として売買してきたごく限られた日本の古美術商を通して、ごく限られた期間にコレクションが形成されている点である。古日本染織コレクションと古美術商との関係性をその時代背景とともに研究することは、戦後の染織史研究の土台となる戦前における古日本染織の古美術品としての価値観が成立されていく過程を検証する上で必要不可欠であると考えた。

2. 研究の目的

(1) 戦後、染織史研究者が調査対象としてきたのは、形状が明確で、近年、古美術品として国内外で人気の高い小袖や能装束といった近世の服飾が中心であった。しかし、明治期以後、大量に輸出された古日本染織の中には、現在はほとんど日本の研究者が対象としない袷袋類のコレクションがかなりまとまった数で所在する。また、19世紀末に美術界で巻き起こったジャポニスムに乗じて、日本の織物や小袖の裂類、染型紙、銘仙や御召などもまた、海外コレクターのコレクション対象となった。本研究は、従来関心の薄かった古日本染織に視野を広げて、それぞれの古日本染織が「古美術品」として移動し、コレクターの元へと蒐集される動機と過程を調査する。それによって、古日本染織蒐集の実像を明らかにすることが目的である。

(2) 国内外に所在する古日本染織コレクションの内容(時代・分類・伝来・由来など)を詳細に調査し、そのデータを整理することによって、近代という世界観の大きな変革の中で生まれた古日本染織の古美術としての価値観を実証することが可能となる。従来古着

や古裂として扱われてきた古日本染織に古美術としての価値が見いだされ、学術的に評価されていった過程を、近代化における文化構造の一部としてとらえ、近現代における古日本染織の美術史的な位置付けを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) まず、日本内外の日本染織史研究者から、明治期から第2次世界大戦前までに形成された古日本染織コレクションに関する情報を収集する。その上で、初年度は国内を中心に年に数回、次年度以降は、国内で年に数回、国外でアメリカと中心に年に2回、本研究の対象となる古日本染織コレクションの調査と撮影を行った。その主な調査訪問先は以下のとおりである。

平成 22 年度
埼玉・遠山記念館
福岡・九州国立博物館

平成 23 年度
埼玉・遠山記念館
福岡・九州国立博物館
ボストン美術館
ロサンゼルス郡立美術館
アリゾナ州・フランク・ロイド・ライト アーカイブス

平成 24 年度
名古屋・松坂屋美術館
福岡・九州国立博物館
ニューヨーク・メトロポリタン美術館
ニューヨーク・個人コレクター
ロサンゼルス郡立美術館
サンフランシスコ・ミルズ・カレッジ付属美術館
サンフランシスコ・デヤング美術館

平成 25 年度
東京・根津美術館
ニューヨーク・メトロポリタン美術館
ブルックリン美術館
パリ個人コレクター
リヨン・リヨン染織美術館

調査場所の選定については、これまで公開されてこなかった古日本染織コレクションや、不十分な情報しか得られない染織資料を最優先とした。その入手経路・流入した際の形状(あるいは形状の変化)・由来・共裂が別のコレクターの所蔵となっているなど、それぞれの古日本染織コレクションとの関連性などに着目しながら、順次調査を行った。

(2) 調査によって得られた古日本染織のデータは、必要に応じてコレクションごとにリストに入力し、近現代に形成された古日本染

織コレクションのデータを検索できる画像付きのリストをファイルメーカーで作成した。また、すでに調査がなされ、そのデータが公開されている古日本染織コレクションについても、その分類や履歴が系統的に整理できるように、調査資料と同様に画像付きのリストをファイルメーカーで作成した。そのリストを元に、古日本染織が古美術品として流通した動向やどのような形態のものがどの時期に移動したのかといった傾向の分析を行い、近現代における古日本染織の美術史的な位置付けについて考察した。

4. 研究成果

(1) 本研究にかかる日本国内および、アメリカの美術館を中心とする古日本染織コレクションの調査によって、あるいは入手した古日本染織コレクションのデータをもとにリスト化された、古日本染織コレクションとその主なデータ件数は以下の通りである。

日本国内コレクション	
野口彦兵衛旧蔵小袖コレクション	119 件
野村正治郎旧蔵小袖・小袖裂コレクション	460 件
吉川観方旧蔵小袖・公家装束コレクション	302 件
岡田三郎助旧蔵古日本染織コレクション	433 件
松坂屋染織史料館旧蔵古日本染織コレクション	425 件
長尾欣弥旧蔵古日本染織コレクション	1134 件
海外コレクション	
フランク・ロイド・ライト旧蔵古日本染織コレクション	87 件
ビゲロー旧蔵ボストン美術館所蔵能装束類	43 件
ロサンゼルス郡立美術館所蔵袷類	99 件
ミルズ・カレッジ付属美術館所蔵袷類	56 件
デ・ヤング美術館所蔵古裂類	41 件
メトロポリタン美術館所蔵袷類	121 件
ブルックリン美術館所蔵古裂類	12 件
リヨン染織美術館所蔵古日本染織	56 件

(2) 本調査によって、日本内外に所在する古日本染織コレクションが形成された時期が大正期から昭和初期にかけてであることが実証されつつある。ただ、当館に所蔵される野口彦兵衛小袖コレクション、および、現在はボストン美術館に所蔵される、日本美術の研究家、ウィリアム・スタージス・ビゲローによって収集された小袖類・能装束類は、明治期の後半に収集されたものである。古日本染織コレクションの構成要素として、国内外

で共通するのは、小袖と小袖の一部である裂類である。しかし、海外の所蔵品の中には、国内ではほとんど見られることのない、大規模な袷類（ロサンゼルス郡立美術館／メトロポリタン美術館）および袷類（ミルズ・カレッジ付属美術館）のコレクションが見られた。それらの国内外の古日本染織コレクションの多くは、京都の野村正治郎、大阪の山中商会を通して入手していることが明らかとなった。また、ビゲローコレクションの能装束の一部も山中商会から入手したものであったことが、ボストン美術館に保管されている書簡類により明らかとなった。

(3) さらに、メトロポリタン美術館付属図書館に所蔵される、近代における染織研究資料や展覧会図録の記録を調査し、海外に所在する古日本染織コレクションと対照させた。その結果、古着や古裂として消耗品と扱われてきた古日本染織を古美術品として価値付けた要因としては、以下のことが明らかとなった。まず、自身もコレクターであった野村正治郎によるアメリカでの研究論文（私家版）の発表や、自らがアメリカのコレクターに売買した袷類コレクションを、その後、アメリカ各地で日本の織物の展覧会として巡回していることが、アメリカ国内のコレクターに、日本染織の価値を広め、高めることに大きく貢献した。また、山中商会による展覧会事業が、従来のアジア美術コレクターに古日本染織の価値を認知させるのに深く関わっていることも明らかとなった。日本と欧米での蒐集の経緯をたどっていくにつれて、海外で販路を広げた野村や山中商会の活動が功を奏して古日本染織の価値が高まり、その価値観をこれらの古美術商が日本に持込むことによって、実業家や画家といった日本の古美術コレクターの間でも、古日本染織コレクションの蒐集に関心が広がっていったことが明らかとなりつつある。

(4) 調査を継続するにしたがって、ニューヨークのブルックリン美術館、サンフランシスコにあるデ・ヤング美術館やミルズ・カレッジ付属美術館など、当初の想定以上に古日本染織コレクションが欧米の美術館・博物館施設に保管されていることが明らかとなった。また、フランス大使館大使、アルセーヌ・アンリー氏が蒐集した古日本染織コレクションは、東京国立博物館に所蔵されるものがすべてではなく、リヨン染織美術館にも所蔵されていることが分かり、それらについても調査を行った。しかし、研究が進行するにつれて明らかとなったそれらの古日本染織コレクションについては、一部は調査が出来たが、未だ全ての調査が完了してはいない。その他にも、オランダやドイツ、スイスにも袷類を中心とする古日本染織コレクションが存在するという情報が得られたが、その内容についてはまったく公開されておらず、また、

日本の研究者によっても調査が及んでいない状況である。今後、研究の視野を拡大して調査を継続していく必要性が見いだされた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

小山弓弦葉、近代染織史研究における「辻が花」の受容について、『MUSEUM 東京国立博物館研究誌』No.627、査読有、2010、5-36

小山弓弦葉、辻が花 中世絞染模様 に関する考察、『東京国立博物館紀要』第44号、査読無、単著、2009、3-111

〔学会発表〕(計3件)

小山弓弦葉、能絵鑑に見る能装束のデザインの变遷、能楽学会、2012

小山弓弦葉、細川家伝来 挽家袋・仕覆について、茶の湯文化学会、2011

小山弓弦葉、「辻が花」を考える —「ことば」と技法をめぐる五〇〇年の歴史—、服飾文化学会講演会、2010

〔図書〕(計2件)

小山弓弦葉、東京大学出版会、「辻が花」の誕生 ことば と 染織技法 をめぐる文化資源学、2012、307

小山弓弦葉、ぎょうせい、『日本の美術524 光琳模様』、2010、96

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小山弓弦葉 (OYAMA, Yuzuruha)
独立行政法人国立文化財機構
東京国立博物館・学芸研究部
調査研究課工芸室・主任研究員
研究者番号：10356272